



福森鉄工所が新工場

来春稼働 金属加工量産品に対応

【岡山】福森鉄工所（岡山市北区、藤井章貴社長、086・252・6677）は、量産品に対応した金属加工の工場を岡山県吉備中央町に新設する。2022年3月の稼働を予定し、本社工場と2拠点体制とする。本社工場は主に多品種少量の製鉄所向け保全部品などを、新工場では20〜100個までの量産品を生産する体制にする。投資額は土地代を含め約5億2000万円。27年6月期の売上高で現在より約6割多い10億円を目指す。

岡山県から吉備高原都市産業区の土地約8000平方メートルを取得し、鉄骨平屋建て一部2階建ての延べ床面積

12000平方メートルの工場を建設する。自動化を進め、新工場の社員は4人程度に抑える。将来は2棟目、3棟目を増設し、社員も20人程度に拡充する計画だ。複数の工作機械の

ほか、生産の自動化に向けて加工対象物（ワーク）をつかむ産業用ロボット、3次元CADなども導入する。新工場の稼働後は、本社工場が1個から5個程度の部品生産に特化

し、新工場は量産品を生産する。従来の製鉄所の設備向け保全部品、産業機械向け部品に加え、新規分野の部品生産の受注も想定する。

福森鉄工所は大型部品から小型部品まで精密加工を行うモノづくり力が強み。ただ現状の生産能力では限界があり「（新規発注の依頼があっても）対応できず、断らざるを得なかった」（藤井社長）という。20年6月期の売上高は6億3000万円だった。

▲吉備高原都市産業区に新設する工場の完成イメージ